

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.12

令和3年11月9日

『生き生き学校』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

「自分は、きっと想像以上だ！～全力篇～」

10月30日(土)、秋晴れの中、体育フェスティバルが行われました。喫緊の市内の感染状況を鑑み、1家庭2名の参加及び立ち見での見学等ご不便をおかけいたしました。大きな混乱もなく無事に終了することができました。皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。

さて、今年度は、2年ぶりの表現運動の発表もあり、子どもたちの本番にける熱い思いは最高潮に達したようです。体育フェスティバル当日の朝、「全力を出し切って、〇〇先生を泣かせるぞ！」等の数々のメッセージが、各教室の黒板を彩っていました。これまで共に歩んできた、子どもたちと指導者のあたたかなつながりが見えるようです。

1年生の感想

- ・おかあさんたちがみて、きんちょうしたけど、たのしかったです。
- ・今日、はじめての体育フェスティバルだけど、ぜんぶがんばれて、うれしかったです。
- ・ゆず「スマイル」をおどったのが、たのしかったです。



2年生の感想

- ・ダンスの細かいところもうまくできるようになったと思います。
- ・ダンスでは、大きな動きでおどることができました。
- ・ダンスの時、まちがわなくて、わらってできてうれしかったです。

3年生の感想

- ・心臓が飛び出しそうになったけど、がんばっておどった。
- ・ぼくは走った。けれど、力が入らない。でも、家族にすごいところを見せたい。なので、力をふりしぼった。
- ・円になったときに一気にきんちょう。もどった時にみんなが「よかったね～」と言っていたから安心した。



4年生の感想

- ・ソーラン節はたくさんの人前でがんばることができました。
- ・人に見られるという緊張感をもてたところが、自分でもすごいと思いました。
- ・おうちの人にすごいところを見せられた。おどったらきんちょうがほぐれて、「やりきった～」と思いました。

5年生の感想

- ・良くしたいことなどを出し合って、本番に成功したことがうれしかったです。
- ・「努力や練習した分、達成感が変わる」ということが分かりました。
- ・集団行動を通して、みんなと協力して一つのことをやり遂げる力がぐんと伸びたと思います。





6年生の感想

- ・私たち6年生の演技する体育フェスは終わってしまいました。でも、今でも演技した時を思い出すと、胸がワクワクして楽しい気持ちになれる。
- ・嫌いなことややりたくないこと、苦手なことも、自分から進んでやれば、楽しいことになるといことです。
- ・ただひたすらそれ（練習）を繰り返す。たった2分強のタイムを短くするためだけに。それだけの作業に価値を見出せたのは、すぐ近くに本気で力を貸してくれる仲間がいたからだ。

子どもたちの感想から、当日の素晴らしい完成形の裏にある努力や願い、失敗を乗り越えた足跡などが見えてきました。こうした過程も全部ひっくるめて、子どもたちは「楽しかった」「成長できた」と振り返っています。

5時間めには、各教室で図書委員会児童による表彰式が行われました。金銀の手作りカップと賞状がどのクラスにも手渡され、友と共に喜びを分かち合いました。

「体育フェスティバル」のねらいの1つに、「学年・学級の所属感を高める」ということがあります。コロナ禍の中、学年・学級のみなどと、一つの目標に向かって何かをやり遂げる機会が少なくなりましたが、こうして体育フェスティバルで得られた達成感を共有し合うことができ、大変意義のある時間でした。

また、子どもたちの振り返りの中には、こんな言葉も数多くありました。

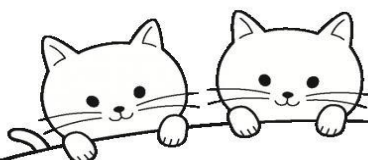
「5年生になったら、体育フェスティバルを企画する方をがんばりたい」

「今日の6年生みたいに委員会をがんばったり、いろんなことができるようになりたい」

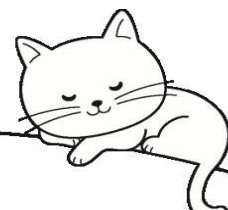
「みんなの役に立てるような高学年になりたい」

自分より上の学年の姿を見て、「自分もあんなふうになりたい」と、あこがれの気持ちが芽生えたという証です。

「自分は、きっと想像以上だ！～全力篇～」（とても素敵な題名だったので6年生の作文からそのまま拝借しました）おそらく多くの子どもたちが感じたことでしょう。折れない心をつくる原動力となることは、間違いありません。



わたしのひとりごと…



地域の方から、とても素敵なお便りをいただきました。

家の前の道路に車が落として行ったのか、帯状に7メートル位何か散らばっています。それは、鮭の切り身、鶏肉、ブロッコリー、キャベツなど、熱を加えた食品類、その上を車が通ったらしく、半分つぶれて道路に張り付いています。

帰宅途中の子どもたちが覗きこんできました。1人の女の子が手伝おうとしてくれました。慌てて私は、「いいの、いいの。おばさんがするから。皆さんは帰りが遅くなるとお母さんが心配するから気をつけて帰ってね。」と言いました。すると、男の子が「ボクは、帰ってもお母さんがいないから心配しないけど、お願いします。」と言いました。

「お願いします」…心に響きました。そして、「頑張ってください」と、姿が見えなくなるまで手を振り、繰り返し叫んでくれました。私は、しっかり励まされ、勇気をもらいました。

本当に岡本小学校の生徒さんは良い子ばかりで、常々励まされ、勇気をもらい、嬉しい思いをさせてもらっております。

お便りには、子どもたちの挨拶も素晴らしいと紹介されていただきました。早速、今週の朝会で、全校に紹介させていただきました。地域の方からのあたたかなメッセージを聴き、子どもたちも教職員も、みんなが優しい気持ちになりました。誰かに何かをしてもらうと、「私も誰かのためにしてみよう」という気持ちになります。こうして、「優しさ」は循環するのです。

『北風と太陽』の話を思い出しました。周りの人に対して「太陽」のような存在でありたいものです。地域の匿名さんと岡本の素敵な子どもたちから、改めて気づかされました。